co-op

これ1本でふんわり上質な仕上がり

ファッションドライ

使い方ガイド

目　次

- つけおきで洗う……2
- 干し方……8
- 仕上げ方……9
- 洗たく機の「ドライコース」などで洗う……10
- お洗たくのコツ……11
- こんな事が起きないために……15
- ファッションドライQ&A……16

WEBからも「使い方ガイド」がご覧いただけます

コープ　ファッションドライ　検索

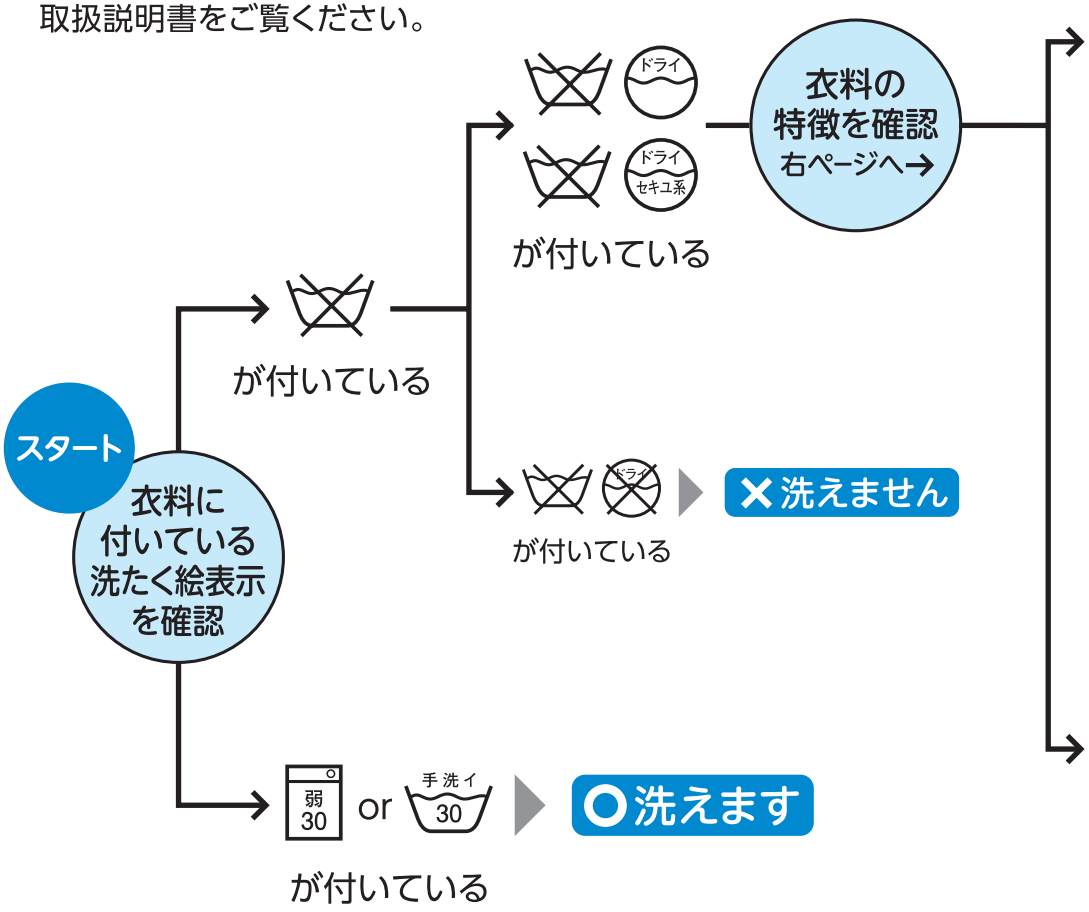
http://www.coopclean.co.jp/site_fashiondry/

商品情報はこちらから

つけおきで洗う

洗えるものを確認

※こちらは「つけおき洗い」での見分け方です。
洗たく機のドライコース使用の場合は洗たく機の取扱説明書をご覧ください。



> ! 洗たく絵表示がなく、取扱いが不明なものは洗わないでください。

洗えません

- 水につけるだけで、縮んだり、表面変化する生地の衣料
  - レーヨン、キュプラ、ポリノジック、ビスコースやその混紡品（裏地として使用しているものも不可）
  - 絹やウールの強くよじった糸（強撚糸）の衣料（クレープ、ジョーゼット、ちりめん）
  - ベルベット、別珍、スエード
  - エンボス加工、シワ加工、樹脂加工品
- 皮革製品、毛皮（人工皮革含む）、装飾物のついた衣料
  （特殊なボタン、飾りのついたもの）
- 色落ちしやすい衣料
  （色落ち確認で色落ちするもの）
- 洗たく絵表示のないもの
  （和服、和装小物、外国製の衣類など）
- 芯地を多く使っているなど、型くずれしやすく、仕上げにくい衣料
  （ネクタイ、コートなど）

洗えます

- セーター、カーディガン
  （ウール、アンゴラ、カシミヤなど）
- スラックス、スカート
- 学生服、セーラー服
  （ブレザータイプは除きます）
- ジャンパー、ダウンジャケット
  14 ページを参照
- ブラウス、シャツ、ワンピース（綿、麻、絹など）
- 毛布、カーテン、布団
  12 13 ページを参照
- その他、素材が合成繊維の衣料
  （ナイロン、アクリル、ポリエステル、アセテートなど）

> ! 素材の不明な（洗たく絵表示のない）ものは洗わないでください。

※防水性、はっ水性衣料（スキーウェア、レインコート、寝袋など）を脱水する場合は、洗たく機を使わず、手で押さえて脱水してください。

つけおきで洗う

洗たく物の仕分けと準備

① ポケットを点検する

小銭、紙くずや砂など、中に残っていないか点検します。

② 洗たく物を仕分ける

白物と色柄物、アンゴラセーターなど毛のつきやすい物などを分けて洗います。

③ 洗たく物をチェックする

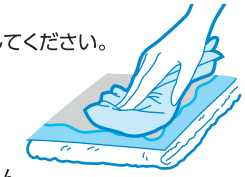
●色落ち確認

特にプリント染め、極端な色使いのものは洗う前に必ずチェックしてください。

[色落ち確認の方法]

①色落ちしそうな部分(裏地のない目立たないところ)に白いタオルをしき、ファッションドライの原液をつけます。

②1～2分後に別のタオルで強く押さえ、下にあてたタオルへの着色(色落ち)を確認します。※色落ちするものは洗えません。



タオルをしいて

●ボタンのチェック

色落ちが心配なボタン、皮革、木製のボタンは、アルミホイルでくるんで洗たくします。

●裏返して洗う

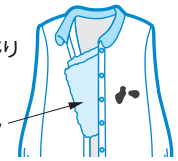
パール、ビーズなど装飾物のついた衣料、絹、レーヨン類混紡品など傷みやすい衣料、ラメの衣料は裏返して洗ってください。

④ 前処理をする

シミやえり・そで口のひどい汚れなどがある場合には、あらかじめ前処理をしておけば、すっきり汚れを落とせます。シミがついてしまったら、できるだけ早く処理しましょう。以下の絵のように汚れに前処理を行った後、すぐにつけおき洗いをしてください。

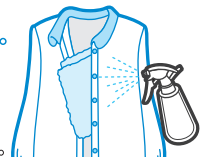
①衣服の裏にタオルをしきます。

前身頃と後身頃の間にタオルをはさめば、裏移りの心配がありません。



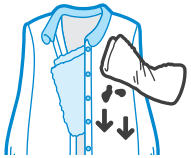
②シミの部分のまわりにたっぷり水をつけます。

霧吹きで何度も吹きかけるのもよい方法です。なければぬれタオルやコットンを使ってください。



③服地用ブラシやコットンに原液をつけ、シミの部分を軽くこするか、たたくようにします。

ブラシでこする場合は、同一方向にかける。



※油汚れ、泥はね、えり、そで口の落ちにくいシミ、汚れは、同じ要領で原液をつけ1～2分置いてから軽くこするか、たたきます。麻は色止め加工が難しい繊維です。こすりすぎると、色落ちの心配がありますので注意してください。

※絹衣料の場合は、必ずコットンでたたいてください。

このようなシミはファッションドライでは落とせません。

●汚れてから日数の経ちすぎたもの　●化学変化したもの(パーマ液、塩素系漂白剤など)

●鉄サビ・カビ・墨汁・インキ　●日光で黄変、変色したもの

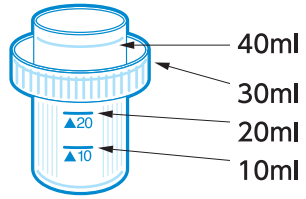
洗たく液のつくり方

まず、水にファッションドライ液を入れ、軽くかきまぜてください。

必ず新しい水を使用してください。
(お湯・おふろの残り湯、1回使用した洗たく液は使用しないでください。)

■使用量の目安

水10Lに対して10ml



キャップ1杯は約43mlです

	洗面器	洗面台	バケツ
水　量	約1.5L	約5L	約10L
ファッションドライ量	少量(1.5ml)	5ml	10ml

	洗たく機を利用してつけおき洗いをする場合			
水　量	65L	55L	45L	30L
ファッションドライ量	65ml	55ml	45ml	30ml

★水量は洗たく機により異なります。洗たく機の表示や取扱説明書などで確認してください。

★ドラム式洗たく機でのつけおき洗いはできません。

■洗たく物量の目安

洗たく物が充分水に浸る程度に水量を加減してください。

(例)洗たく液30Lで洗える量

セーターだけなら……約4枚まで

スラックスだけなら……約7本まで

ブラウス、シャツだけなら……約15枚まで

お洗たく方法

「つけおき」「すすぎ」「脱水」の時間をお守りください。
洗たく機を回すのは「脱水」のときだけです。

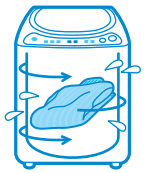
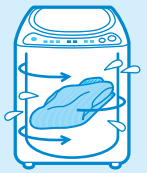
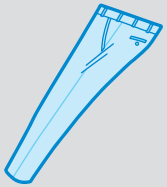
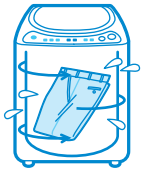
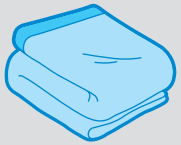
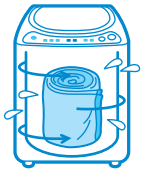
洗うものの種類 すすぎ1回

つけおき → 脱水 → すすぎ → 脱水

洗うものの種類	つけおき	脱水	すすぎ	脱水
ブラウスなど薄手の衣料 綿、麻、絹などのブラウス、ワンピース、シャツ、下着	**1〜3分** 収納するときのようにていねいにたたんで**洗たく液に**つけておきます。	**5秒** たたんだまま脱水槽に入れて本回転から5秒間脱水します。	**1分** たたんだまま**きれいな水に**つけておきます。	**5秒** たたんだまま脱水槽に入れて本回転から5秒間脱水します。

洗うものの種類 すすぎ2回

つけおき → 脱水 → すすぎ① → すすぎ② → 脱水① → 脱水②

洗うものの種類	つけおき	脱水	すすぎ①	すすぎ②	脱水①	脱水②
セーターなど冬物衣料 ウール、カシミヤ、アンゴラなどのセーター、カーディガン	**3〜5分** 収納するときのようにていねいにたたんで**洗たく液に**つけておきます。	**10秒** たたんだまま脱水槽に入れて本回転から10秒間脱水します。 	**1分** たたんだまま**きれいな水に**つけておきます。		**10秒** たたんだまま脱水槽に入れて本回転から10秒間脱水します。 	
型くずれの気になるもの スラックス、スカート、学生服、ジャンパーなど 	**3〜5分** 軽くたたんで**洗たく液に**つけておきます。	**10秒** たたんだまま脱水槽に入れて本回転から10秒間脱水します。 	**1分** たたんだまま**きれいな水に**つけておきます。		**10秒** たたんだまま脱水槽に入れて本回転から10秒間脱水します。	
毛布などの大物 毛布、夏掛けふとん、カーテンなど 	**10〜15分** 軽く折りたたんで**洗たく液に**つけておきます。	**30秒** たたんだまま脱水槽に入れて本回転から30秒間脱水します。 	取り出して水をためる **1分** たたんだまま**きれいな水に**つけておきます。		**30秒** たたんだまま脱水槽に入れて本回転から30秒間脱水します。	

すすぎ①、脱水①の後、すすぎ②、脱水②を行う

※洗たく機を利用してつけおく際は、すすぎのときに一度衣料を取り出し、水をためてから衣料を入れてすすいでください。
※汚れのひどいものは、長時間つけおきしておくより、いったん脱水し、新しい洗たく液で、もう一度つけおきする方がきれいに洗えます。
※脱水は水滴が落ちない程度に軽くするのがポイントです。脱水のしすぎはシワの原因になります。

「お洗たくのコツ」も合わせてご確認ください。
●ブラウス 11 ページを参照
●毛布やカーテンなどの大物洗い 12 13 ページを参照
●ダウンジャケット 14 ページを参照

つけおきで洗う

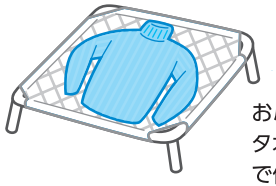
干し方

干すとき、手でたたいてシワを取っておくと、
仕上げのアイロンがけが楽になります。

陰干し（乾燥）　衣類乾燥機は使用しないでください。

■平干し（セーター・カーディガン）

伸びやすいので平干しネットがおすすめ。



おふろのふたに
タオルをしいたもの
で代用できます。

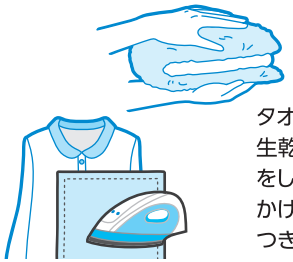
■ハンガー干し①（セーター・カーディガン）

平干しできない時はハンガー干し

ハンガーを2～3本
使って衣料の重さを
分散させます。

■うす手のシワになりやすいもの

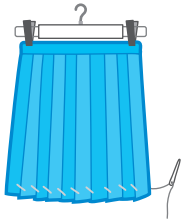
平干しまたはハンガー干し



タオルドライして
生乾きの時にあて布
をしてアイロンを
かけると小ジワが
つきにくくなります。

■ハンガー干し②（スカート・スラックス）

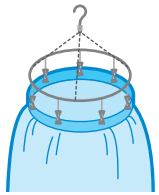
形を整えてハンガー干し
（伸びやすいものは平干し）



プリーツなどのヒダが
とれやすいものは、
あらかじめ、しつけ糸
でとめて洗たくし、
乾いてからとります。

雨の日など乾きにくいときのひと工夫

■衣料の間にすきまをつくります。



スカートは裏返して
ピンチハンガーで
筒状に干します。

ブラウスは肩に厚み
のある洗たく物干し用
のハンガーや、肩部に
タオルを巻きつけた
ハンガーで干します。

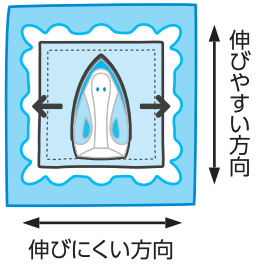
仕上げ方

アイロンは衣料についている洗たく絵表示を確認し、
繊維に合わせた温度でかけてください。

上手なアイロンがけ

■スカーフ

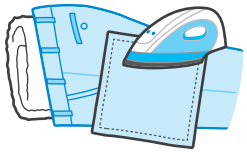
（あて布をしてドライアイロンをする）



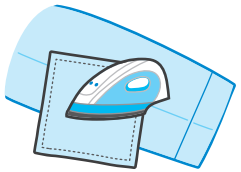
平織りの生地には
張ってみて伸びやすい方向と
伸びにくい方向があります。
アイロンは伸びにくい方向に
あててください。

■スラックス

（あて布をしてスチームアイロンをする）



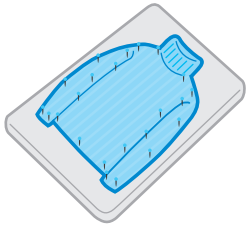
①バスタオルを
丸めて入れ、
腰回りを
仕上げます。



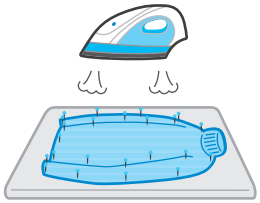
②すそから、
また下までの縫い目
を合わせながら、
中心に折り目を
つけていきます。

■セーターなど

（ウール、絹、麻などで洗たく後縮んだものは、この方法である程度伸ばすことができます。
衣料購入時に型紙を取っておくと便利です。）



①完全に乾いてから、
広いアイロン台に、
伸ばしたい寸法に
広げマチ針を
打ちます。



②スチームアイロンを
浮かしてたっぷりの
スチームをかけ、
完全に乾くまで
そのまま置きます。

洗たく機の「ドライコース」などで洗う（一般の洗たく機、ドラム式など）

洗えるものを確認

洗たく機の種類やコースにより、洗えるものが異なります。
必ず洗たく機の取扱説明書に従って確認してください。

洗たく物の仕分けと準備

4 ページの手順に従って、準備をしてください。
落ちにくい汚れがある場合には、洗たく前の前処理が効果的です。

ファッションドライ使用量の目安

洗たく機の取扱説明書で洗剤使用量をご確認ください。
洗たく機の取扱説明書に洗剤使用量が書かれていない場合は、
5 ページの使用量の目安をご参照ください。

干し方・仕上げ方

8 9 ページの手順を参考に、型くずれを起こさないようにていねいに仕上げてください。

お洗たくのコツ❶

ブラウス・シャツの洗い方

1.色落ち確認

4 ページの色落ち確認の方法に従って、確認してください。
とくにプリント染め、極端な色使いのものは、洗う前に必ずチェック。

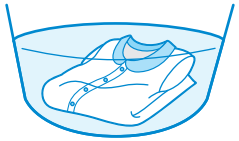
2.シミや汚れのひどい部分は前処理

ぬれタオルなどで、シミや汚れの周囲をぬらし、輪ジミを防ぎます。
タオルなどに原液をつけてたたきます。

※傷みの原因となりますので、決してこすらないでください。

3.軽くたたんで、つけおき

つけおき（1～3分）→ 脱水（5秒）またはタオルドライ
↓
つけおきすすぎ（1分）
↓
脱水（5秒）またはタオルドライ
↓
陰干し（ハンガー干し）



タオルドライ

バスタオルの上に衣料をのせ、型をととのえてから、
さらにバスタオルをかぶせ、軽く押して水分を取ります。
脱水しすぎないのが、洗たく後のシワを防ぐコツです。

両肩をつかんで振りさばき、全体の小ジワを取ります。
えりやそで、すそを軽く引っ張り、型をととのえて干します。

生乾きのとき（干してからおよそ1時間半くらい）に
あて布をして中温（140～160℃）でドライアイロンをかけると、
小ジワがつきにくく、きれいに仕上がります。
乾きすぎてしまっていたら、霧吹きでもう一度湿らせてください。

お洗たくのコツ❷

毛布・うす手の布団（夏掛け、こたつ、子ども・ベビー布団）の洗い方

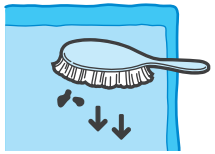
1.色落ち確認

4 ページの色落ち確認の方法に従って、確認してください。

2.掃除機やふとんたたきでほこりを払ってください。

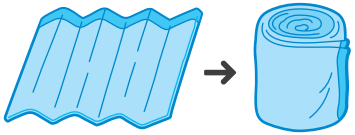
3.汚れのひどい部分はブラシで前処理

特に汚れた部分は、原液をつけたブラシなどで
一定方向にこすります。



4.丸めて、つけおき

屏風たたみにして、丸めて洗たく機へ入れます。全体がつかるよう、ゆっくり空気を抜くように押し沈めてください。



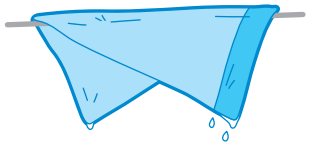
洗たく機に入らない場合は、おふろ場の浴槽を利用して洗うことができます。この場合、脱水は浴槽のせんを抜き、ある程度水が抜けたら浴槽のふちにかけて、自然に脱水してください。

つけおき（15分）→ 脱水（30秒）
↓
つけおきすすぎ①（1分）
↓
脱水（30秒）
↓
つけおきすすぎ②（1分）
↓
脱水（30秒）
↓
陰干し（三角干し）

※洗たく機をまわすのは
脱水だけです。

水滴が一定方向からおちるように、三角干しで干します。
布団は、乾いたら手でかたよった中綿をほぐして均等にし、ふくらみを戻せば仕上がりです。毛布は、パイル（毛なみ）の方向に軽くブラッシングしてください。

三角干し



お洗たくのコツ❸

カーテンの洗い方

1.素材・収縮率の確認

あらかじめ表示されている収縮率を確かめてください。
初めて水洗いするときは、その分だけ縮みます。

> ! レーヨン・レーヨン混紡や、オーダー品など取り扱い絵表示がなく素材や収縮率が分からないときは洗わないでください。

2.色落ち確認

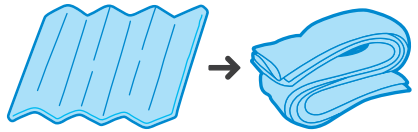
4 ページの色落ち確認の方法に従って、確認してください。

3.掃除機やふとんたたきでほこりを払ってください。

4.汚れのひどい部分はブラシで前処理

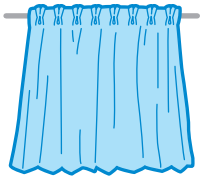
5.屏風たたみにして、つけおき

屏風たたみにして、つけおきます。
まず縦に屏風たたみ、さらに横にも屏風たたみにします。



つけおき（15分）→ 脱水（30秒）
↓
つけおきすすぎ①（1分）
↓
脱水（30秒）
↓
つけおきすすぎ②（1分）
↓
脱水（30秒）
↓
乾　燥

※洗たく機をまわすのは
脱水だけです。



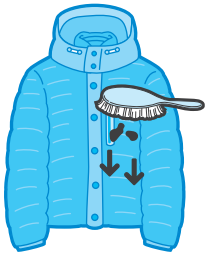
カーテンレールなどにかけて、
乾かします。

お洗たくのコツ④

ダウンジャケットの洗い方

1.色落ち確認

4 ページの色落ち確認の方法に従って、確認してください。



2.汚れのひどい部分はブラシで前処理

3.軽くたたんで、つけおき

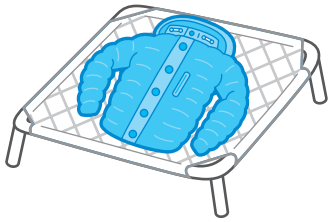
衣料全体がつかるよう、ゆっくり空気を抜くように押し沈めます。
このとき、衣料をもまないでください。ダウンが固まり、型くずれの原因になります。

つけおき（15分）→ 脱水（30秒）
↓
つけおきすすぎ①（1分）
↓
脱水（30秒）
↓
つけおきすすぎ②（1分）
↓
脱水（30秒）
↓
陰干し（平干し）

※洗たく機をまわすのは脱水だけです。
ただし、防水性、はっ水性のものを脱水する場合は、洗たく機を使わず、手で押さえて脱水してください。

風通しのいいところで陰干しします。
水を含んで重くなっているので、ハンガーよりも平干しネットなど平らなところで干すほうが、型くずれを防ぐことができます。
おふろのふたにタオルをしいたものでも代用できます。

乾きかけた時に、手でかたよったダウンをほぐし、均等にしておきます。さらに乾かして、全体をポンポンとたたいてふくらみを戻せば仕上がりです。



こんな事が起きないために

黄ばみ

- ●必ず、陰干ししてください。（デリケートな繊維は日光に弱く変色しやすくなっています。）
- ●鉄分の多い水で洗うと、黄ばむことがありますのでご注意ください。
- ●漂白剤との併用は避けてください。（毛、絹等の繊維は塩素系や酸素系漂白剤で黄変することがあります。）
- ※漂白剤は繊維との適合性があります。ご使用される際には、漂白剤の使用上の注意をよく読んでからお使いください。

色落ち

- ●色落ちしやすいもの、心配なものは、あらかじめ 4 ページの要領で色落ちを確認してください。（染色・染料によって色落ちしやすいものがあります。）

色移り

- ●白物と色柄物を分けて洗うのが安全です。
- ●洗剤の量が多すぎたり、水が少なすぎたりした場合、色移りしやすくなります。洗剤の使用量を守ってください。

伸び

- ●ニット、毛、アクリルなど伸びやすい素材の物はつるさずに平干しにします。（40℃以上のお湯での洗たく、乾燥機の使用はおやめください。）

縮み

- ●特にシルクやウールなど動物性繊維はぬれた状態で強くこすり合わせたり、熱いお湯につけると縮みます。お湯は使わないでください。
- ●必ず、つけおき洗いで、洗ってください。
- ●脱水のかけすぎに注意してください。

シワ

- ●脱水のかけすぎに注意してください。
- ●きちんとたたんで、つけおき、脱水を行ってください。
- ●干す時には、型を整え、シワを伸ばして干してください。（アセテート、絹等、デリケートな繊維は、長い時間脱水すると取れにくいシワになります。）

ファッションドライQ&A

Q1 ファッションドライはどんな洗剤ですか?

A 「つけおき洗い用」の洗剤です。

機械の力をかけずに洗うことで、デリケートな衣料やお気に入りの大切な服をやさしく洗います。洗浄成分の組み合わせにこだわり、しっかり汚れを落とし、柔軟仕上成分配合でふんわり上質に仕上がります。大切な服にうれしい、抗菌・防臭効果もあります。

Q2 お湯やおふろの残り湯を使えますか?

A 使わないでください。

ウール、絹などの天然繊維はお湯を使うと繊維が膨張しやすくなり縮みが大きくなります。また、おふろの残り湯には身体の汚れが含まれているので適しません。

Q3 漂白剤は使えますか?

A 塩素系漂白剤は使えません。

また、デリケートな衣料や繊維のなかには酸素系漂白剤も使えないものがあります。漂白剤の表示をよく読んでご使用ください。

Q4 柔軟剤やのり剤は使えますか?

A 使えます。

お好みの風合いに仕上げたいときは、最後の「つけおきすすぎ」時にご使用ください。
(ファッションドライは柔軟仕上成分を配合しており、これだけでもふんわり仕上がります。)

Q5 洗たく機の「ドライコース」は使えますか?(コース名称は機種によります)

A 洗たく機の取扱説明書にしたがってください。

洗たく機によって、洗えるもの、洗剤の使用量が違います。よく読んでご使用ください。
ただし、防水性、はっ水性衣料を洗う場合は使用しないでください。

Q6 洗たく機で脱水するとき「10秒」という設定ができないのですが。

A 脱水槽が本回転になってから手動で停止させてください。

脱水槽が動きだしてから本回転になると音が変わります。
音が変わってから10秒後に一時停止などのボタンを押して脱水を停止させてください。

2014年11月作成